

令和 5 年度第 1 回大洗町地域公共交通会議書面協議結果について

1. 議題

- ①令和 4 年度事業報告及び収支決算について
- ②町民・観光客アンケート調査について

2. 結果

意見等については別紙のとおり

(別紙)

意見等

【町民アンケート】

項目	意見等	事務局の考え
問 1④	返信用封筒などに任意の番号などを振っておけば、どこの地区の人が回答したのかが分かるのでは。	宛名ラベルに町内会名を記載し、設問文にその旨を記載します。
問 1⑥～⑧	「身体的な観点から」はわかりにくく「自力で」と記載すれば足りるのではないのでしょうか。	身体的な観点であることを説明しない場合、例えば高校生が「(お金や車が無いから) ひとりで外出できない」と回答されることが考えられます。 ⑥～⑨は問を分け身体的な観点からの設問であることを説明する質問文を追加します。
問 1⑨	身体的に待つことができるかどうかを聞きたいのかがわからない。	
問 1⑬	キャッシュレス決済は「アプリ」に限定が必要でしょうか。 公共交通で決済アプリを使っている人か、コンビニなどだけで使っている人なども含めているのかがわからない。	検討した結果、キャッシュレス決済に関する設問は不要と判断し削除します。
問 4	外出先の欄の住所で、出来れば大洗町・水戸市ぐらいは、記載しておいて○で囲むようにすると記入が楽になると思う。	選択肢を設けると回答内容を誘導してしまうおそれがあるため、自由記述形式としています。(修正なし)
問 4	問 1 の⑤で職業を聞いているので、通勤と通学は同じ欄にしてもよいのでは。	学生がアルバイトをしている場合などが想定されるため、通勤と通学が同時に回答できるよう別の欄としています。(修正なし)
問 5	町内循環バスの説明において「1,538 万円を支出しており」を「1,538 万円を町が負担しており」としてはどうか。(問 5 と合わせる)	ご意見のとおり修正します。

項目	意見等	事務局の考え
問 9④	バスやタクシーは「便（台）数が少ない」「停留所が不便」など「あるが困っている」状態と思います。「あれば困らずに済む」という設問や選択肢に工夫が必要と感じます。	設問文の「あれば困らずに済む」を「適切なサービス水準で運行されていれば困らずに済む」に修正します。また、選択肢に「その他」を追加します。
問 10	複数回答可は良いと思うが、例えば3つまでとかにしないとほとんど○をつけたくなった。	他自治体の事例では、同様の複数回答可でも集計時に選択肢間で差別化できていましたので、問題ないと思料します。（修正なし）
	“⑦公共交通の利用促進への要件”に係り、持続可能な公共交通を探る考え方として、町民に自分事として考えてもらうために、ライフステージに沿った利用条件（公共交通へ切り替えるタイミング、あなたがどうなったら、どんな状況になったら利用したいか）を問う設問があってもよいのではないか。アンケート案の設問は、回答者の「今」しか問うていない気がする。	「何歳になったら公共交通を利用するようになるか」の実態については、年齢と公共交通の利用状況をクロス集計して分析します。 ライフステージによって公共交通へ切り替えるタイミングとしては主として免許返納が考えられますが、こちらについては1頁目に設問しております。 また、4頁目の自家用車から公共交通に変える場合必要となる条件の設問の選択肢に「15. 免許返納したら公共交通で移動する」とあったものを、免許返納に限らず年齢や身体状況を含めて「車の運転ができなくなったら」に修正します。

【観光客アンケート】

項目	意見等	事務局の考え
問 1⑬	キャッシュレス決済は「アプリ」に限定が必要でしょうか。	検討した結果、キャッシュレス決済に関する設問は不要と判断し削除します。
問 2④⑤	町民アンケートは「自力で」となっており統一してはどうか。	町民アンケートと統一します。
問 5④	親族に限定する理由が無ければ「親族や友人など」としてはどうか。	ご意見のとおり修正します。
	アンケート案は、回答者を健常者のみに無意識に想定している感があり、それでいいのかと思う。対面聞き取り方式なので、明らかにしたいことの方向性が異なると思うが、電車利用の児童の遠足に合わせて、循環バスで公共交通の乗車体験をさせたいという問い合わせや、電車利用の家族旅行だが高齢者がいるので、車いすのレンタルと車いすで乗降可能な乗り物の照会を受けたことがある。また、最近は認知症であっても夫婦・家族で小旅行するケースが増えてきているように思われる。ノーマライゼーション、バリアフリーが標準とされる昨今において（ようやく駅にエレベーターがついたことだし）、障害者などの少数派も今後の観光客体として意識してもよいのではないか。	車いすが必要な高齢者や障害者の有無については直接的には設問しておりませんが、表面の「タクシー車両に自力で乗降できるか」の設問で婉曲的に訊き、集計します。 子どもや高齢者、障害者を客体とした場合の公共交通の課題認識として、裏面の「大洗町の交通について困ったこと」の設問の選択肢に「子どもと一緒に移動しにくい」「高齢者・障がい者と一緒に移動しにくい」を追加し、また「公共交通に対して期待すること」の設問の選択肢に「子どもと一緒に移動しやすい」「高齢者・障がい者と一緒に移動しやすい」を追加します。